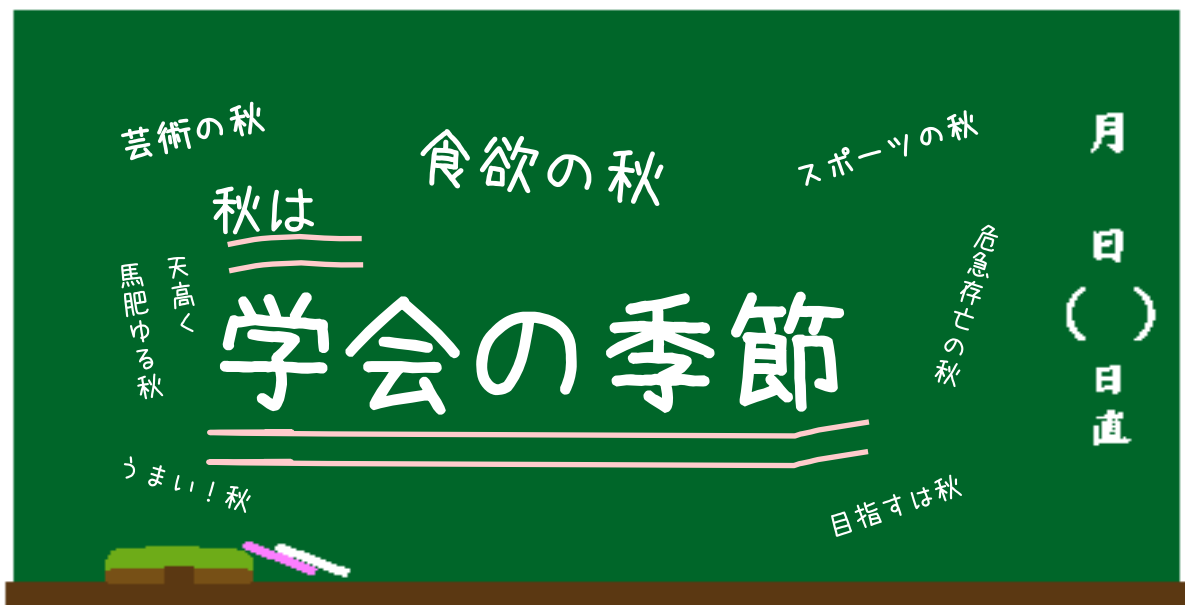


京都コムファ

薬学生ニュース

2013 年秋号

2013. 10. 1 発行



Topics

近畿地協薬剤師交流集会

薬学生交流会

在宅訪問日誌 コスモス薬局

うちの薬局 あゆみ薬局





近畿地協 薬剤師交流集会

9月8日(日)、大阪で民医連近畿地協薬剤師交流集会が開かれました。

これは2年に一回、近畿圏で働いている民医連の薬剤師が集まる学会です。

午前中は、医師による記念講演、午後からは、薬害・在宅・災害医療・教育研修・向精神薬・栄養管理・薬薬連携・副作用調査・新薬評価・シエネリックなど各テーマに分かれて分科会が行われました。

テーマ 薬は誰のためのもの？

～患者さんの事考えていますか？見えていますか？～



記念講演は、城北病院の名誉院長である筋昭三先生より薬害の話を行いました。
キノホルムという整腸剤によって生じた神経障害が多発した(二万人以上)薬害スモン。筋先生はその事件を目のあたりにした医師の一人でした。電気を薄暗くすると「眼が痛い」という患者、大腿部から末梢まで筆で触っても分からない(触覚低下)にも関わらず、筆の柄で触ると「痛い」と訴える(異常知覚)の患者など、原因も不明のため当時は随分と苦労されたようでした。
キノホルムは、「内服しても消化管から吸収されないので安全である」とされてきました。

ですが、一日投与量が多い場合の毒性を危惧する文献も戦前に発表されていました。にもかかわらず、きちんと検討することなく、劇薬指定をはずし(戦前)、適応症をアメルバ赤痢という特殊な疾患から、一般的な下痢症状まで拡大(戦後)したこと、さらには、投与量の制限を緩和したことが、日本国内においてスモン患者が大量発生した原因となりました。薬品を認可する時点できちんと制限をかけていれば未然に防げた事態でもあるのです。私たちはこういった事件があったことをきちんと学び、これからの薬剤師としてどう仕事をしていくか考えなければならぬと感じました。



コムファの職員も「薬害」分科会で発表しました。

午後からは、向精神薬の分科会に参加しました。実際の医師の処方や病気に対する考え方を聞き、非常に勉強になりました。民医連の分科会の良い所は、薬剤師会が主催するのに比べてよい人数であることです。今回は30人ぐらいでしたが、大人数でないために「質問がしやすい」環境にあります。質疑応答の間では途切れることなく質問が続きました。「質問が続く」というのは医療に対して積極的に関わろうとする民医連の薬剤師の方々の姿勢も反映されているのだと考えています。議論を交わすことは様々な見方を自分に与えてくれると同時に、お互いの認識を一致させるのにも必要な作業です。そういう点で民医連は職場だけでなく、学会でも意見交換する環境が整っていると感じます。

有益な意見交換をするためには相応の知識が必要です。学会や勉強会に出るたびに「もっと勉強しないと」と良い刺激になります。これからは学会の場があれば積極的に参加していきたいと思えます。

みつばち薬局上賀茂店 前田

2013年 夏の 薬学生 交流会

京都コムファ

8月25日、薬学生交流会を開催しました。今年のテーマは「災害支援」。1回生から5回生まで計8名の薬学生さんが参加してくれました。

災害支援報告

震災支援の報告をあゆみ薬局片山薬剤師にしてもらいました。当時の写真や、被災した患者の対応等、何回も支援報告を聞いている僕にもすごく衝撃的でした。薬学生さんも講演中、ペンがすごく走っていて同じように衝撃的だったのではないかと思います。現地の薬局薬剤師の「決して華々しい仕事ではないけれど、薬剤師が調剤をやる」ということがどんなに大切なことであるか、本当に良かった「この言葉がとても響きました」。

グループワーク

被災した患者の服用している薬を、グループワークで特定してもらいました。課題は2つで、「服用していたお薬がなくなっていました。名前は確か何とかリンといったなあ。」をヒントに患者役の薬剤師に質問をして、薬を導く。というものと、「かかりつけの薬局、病院が無くなってしまった患者さんが、薬局からもらった1包化の薬をいくつか持っている」といった状況で実際に1包化の薬を鑑別する。というものでした。



薬剤師役の学生から、想定していなかった質問もたくさん出て、患者役の僕も勉強になりました。災害支援の報告からイメージを持って臨めたのではないかと思います。自身も楽しく学び、真剣な薬学生さんに刺激を受けた一日でした。

花ぐるま薬局 高尾

- 今回はコスモス薬局からです。Kさんは、今年3月から訪問配薬になった患者さんです。以前は、別の診療所を外来受診されており、コスモス薬局に薬をもらいに来られていました。転倒による入院をきっかけに在宅往診管理となり、コスモス薬局からも配薬となりました。
- 当初ケアマネジャーから、薬カレンダーでは管理できないと聞いたので、ヘルパーやデイサービスの迎えなど各サービスが入った時に薬を手渡しして管理することにしました。薬に日付を記入し、各サービスの書類が置いてあるご本人が触らない場所にセットしていました。
- コスモス薬局の薬歴によるとKさんは去年の9月までは緑内障で定期的に眼科を受診していましたが、その後受診が途絶えていました。訪問時、とても見づらそうにされていたので、眼科受診を促しケアマネジャーにもその旨を伝えました。早速、眼科を受診され、処方された点眼薬もコスモス薬局で管理しています。
- しばらくは、薬局が一週間ごとに薬をセットし、サービスの手渡しでうまくいっていたのですが、6月、ケアマネジャーから薬が足りないという連絡がありました。ご本人が触って飲みすぎている可能性が高かったため、過剰投与を防ぐために薬のセット場所をご本人の手の届かない戸棚の上に変更しました。

連載コラム 在宅訪問日誌 第4回 コスモス薬局



ところが、その頃から頻りに薬局に「薬がない」とご本人から電話がかかってくるようになりしました。その都度「ヘルパーさんが渡してくれるので待っていて」と伝えると落ち着かれましたが、その後もしばらくは同じような状態が続きました。

ご本人の目の届かないところに置いたことが不安につながったのだろうと考え、セット場所を元に戻しましたが、薬がないという連絡が続いたので、薬袋にチェックリストをつけることにしました。手渡しをしたサービスが日付にチェックを入れるというものです。それと、ご自身で出して服用した場合はその分包紙を残しておいて、サービスの方に見せてもらうようにしました。

これにより、薬が手元にないという不安もなくなつたようで、訪問時には飲んだ分包紙を見せてくれます。今ではすっかり落ち着かれ、お元気そうに過ごしておられます。

患者さんの状態は常に変化しているので、その都度患者さんが安心して服用できるように、しっかりと向き合って解決していくことが大切だと感じました。 コスモス薬局 後藤

あゆみ薬局

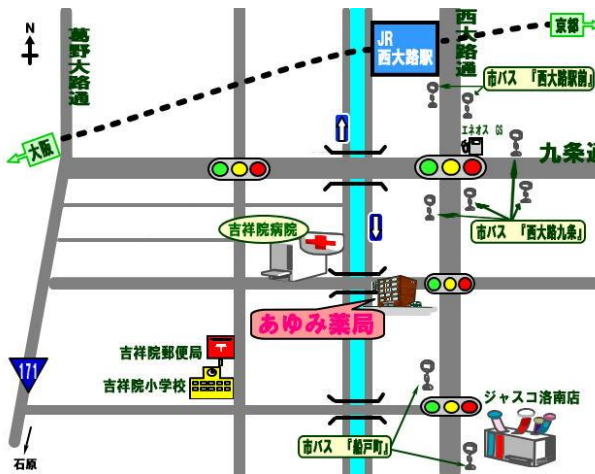
京都市南区吉祥院御池町 22



あゆみ薬局は京都市南区、西大路九条にあります。近くには東寺があり、京都の風情を感じる町です。

基幹病院である吉祥院病院の処方箋を主に応需していますが、他病院や近隣の医院などの処方も増えてきています。毎月の受付処方せん枚数は約2500枚です。

在宅訪問指導業務に力を入れ、月曜日から土曜日まで毎日訪問に出ています。訪問患者数は約120名・訪問回数は毎月300回を超えます。ケアマネジャーさんを始め多職種との連携も重視し、サービス担当者会議やカンファレンスにも積極的に参加しています。



京都駅からJR大阪方面へ一駅の「西大路駅」から南へ徒歩10分と通勤に便利のため、大阪や滋賀など京都府外から通勤している職員も少なくありません。

6年制卒業の若手職員から40代・50代のベテランまで幅広い年代の14名の薬剤師(常勤10・非常勤4)と事務スタッフ数名が勤務しており、とてもアットホームな雰囲気のある薬局です。

あゆみ薬局 正岡



Twitter アカウント@kyotocompha

各薬局の取組や説明会情報など、事務局がつぶやきます。

facebook

Facebook ページ始めました。

<https://www.facebook.com/kyotocompha>



コムファリレー

京都コムファ HP 内

<http://www.kyoto-compha.or.jp/>

京都コムファで働く薬剤師のブログ
週3回更新しています。



一般社団法人京都コムファ

〒604-8454 京都市中京区西ノ京小堀池町1
サンロード・朱雀102号室

Tel:075-366-6804 FAX:075-366-6814

e-mail:yakugaku@kyoto-compha.or.jp

みつばち薬局上賀茂店
花ぐるま薬局
コスモス薬局

みつばち薬局紫野店
なごみ薬局
あゆみ薬局

薬局見学・インターンシップ 随時受け付けています。お申込み、お問い合わせは上記まで。